

A close-up photograph of two hands, one larger and one smaller, gently touching a tree trunk covered in vibrant green moss. The background is a soft, out-of-focus green, suggesting a natural outdoor setting. The lighting is bright and natural, highlighting the texture of the moss and the skin of the hands.

花王

サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク

SUSTAINABILITY LINKED BOND FRAMEWORK

2023年5月

1. はじめに

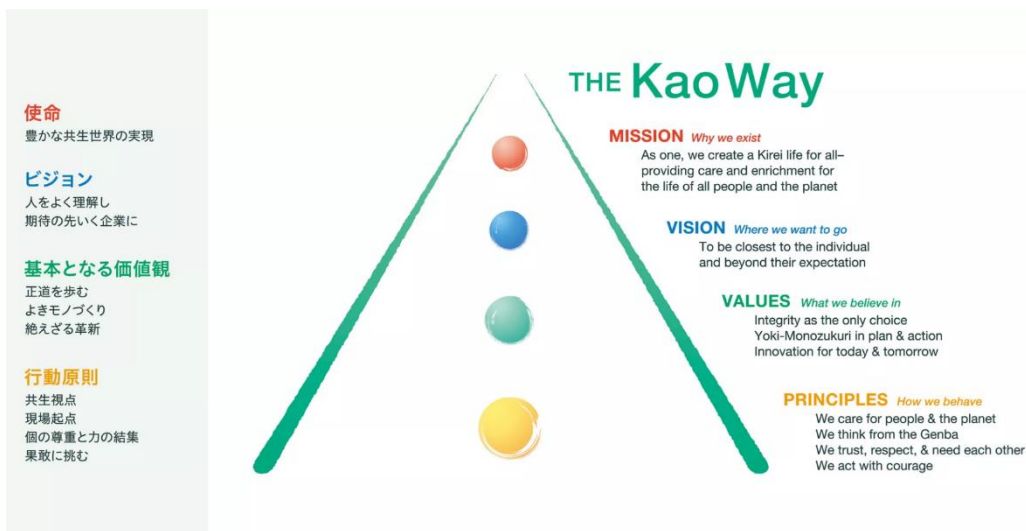
消費者と顧客の立場にたった“よきモノづくり”で、 世界の人々の豊かな生活文化の実現に貢献

花王（以下、「当社」）は創業以来、消費者起点の“よきモノづくり”を通じた「豊かな共生世界の実現」を使命に、活動を続けてきました。1890(明治 23)年に発売した高級化粧石鹸「花王石鹸」は、日本のトイレタリー市場の黎明を告げる商品であり、社名の由来にもなりました。

その後、洗剤やサニタリー製品などといった、人々の毎日の暮らしを快適にする製品や、化粧品をはじめとするビューティケア製品、健康をサポートする、機能性食品分野の製品へとその事業領域を拡大してまいりました。また工業用製品分野では、機能や性能はもちろん、環境にも配慮した高品質のケミカル製品を、世界の産業界に向けて提供してきました。

1.1 花王の企業理念（「花王ウェイ」）

「花王ウェイ」は、花王グループの企業活動の拠りどころとなる、企業理念(Corporate Philosophy)です。中長期にわたる事業計画の策定から、日々のビジネスにおける一つひとつの判断にいたるまで、「花王ウェイ」を基本とすることで、グループの活動は一貫したものとなります。また一人ひとりの社員にとっては、会社の発展と個人の成長を重ね合わせ、仕事の働きがい、生きがいを得るうえで欠かすことのできない、指針でもあります。



使命 豊かな共生世界の実現

私たちは、志をひとつに熱意をこめて、日々をよりこころ豊かにすることに邁進し、Kirei Life～すべての人と地球にとってより清潔で美しく健やかな暮らし方～を創造します。優れた価値を生み出す革新を通して喜びを分かち合い、すべての命にとって安心して調和のとれた世界を実現します。

1.2 Kirei Lifestyle Plan –花王の ESG 戦略–

当社は約 130 年にわたり、人々の暮らしに寄り添うことで、こころ豊かな暮らしの実現をめざしてきました。2019 年 4 月には、生活者のニーズが高まっている持続可能な暮らしを「Kirei Lifestyle」とし、それを実現するための ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」を策定。19 の重点取り組みテーマを設定しています。また、2021 年からは、「未来のいのちを守る～Sustainability as the only path」をビジョンに掲げた中期経営計画「K25」をスタートしています。今後も、経営に ESG の視点を導入し、事業の発展と消費者や社会へのよりよい製品・サービスの提供をめざし、パーパスである「豊かな共生世界の実現」に向けて取り組んでまいります。

花王の ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」



1.3 中期経営計画「K25」

当社グループは、豊かな持続的社会的実現に向けて、2021 年度から 2025 年度までの 5 か年を対象とした「花王グループ中期経営計画 K25 (Kao Group Mid-term Plan 2025)」を策定しました。「K25」は、当社が「豊かな共生世界の実現」というパーパスをめざすための重要な通過点です。私たちは「K25」を経てビジネスモデルを大きく変革し、「未来のいのちを守る」企業に進化します。そして、社会課題に挑む多くのパートナーと共に、次なる価値創造と利益ある発展に向けて加速していきます。

花王グループ中期経営計画「K25」

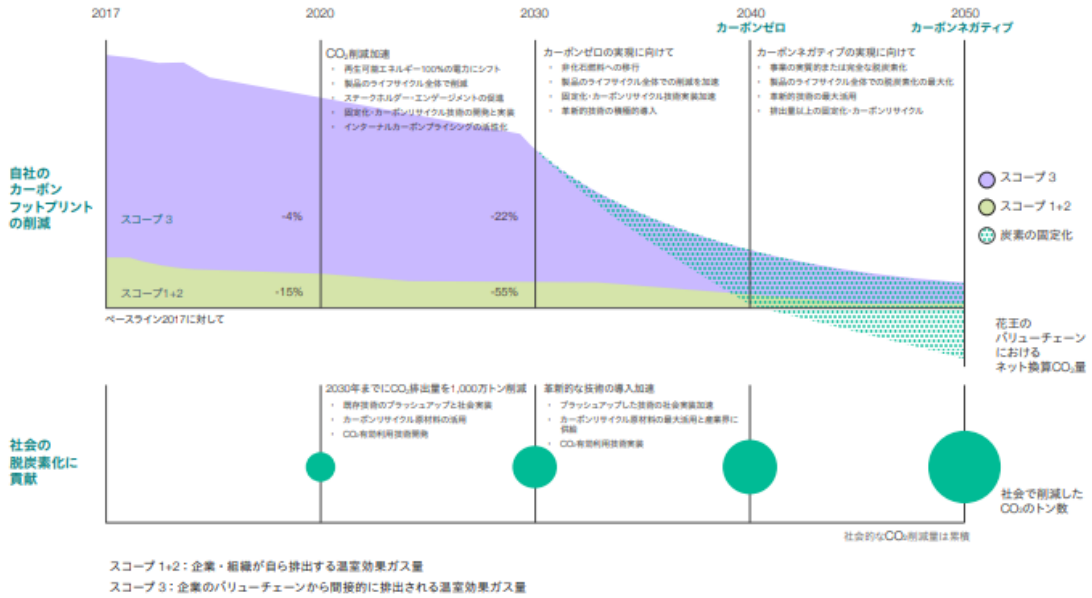


1.4 脱炭素に向けた取り組み

当社は 2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブの実現に向け、事業活動における CO2 排出量削減に加え、社会の排出量削減や、大気中の炭素の固定化を通じ脱炭素社会への貢献をめざします。2021 年 5 月に 2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブをめざす、新たな「脱炭素」目標を公表しました。その達成に向けて設定した中長期目標は、国際的なイニシアチブである SBTi (Science-based Targets イニシアチブ) から「1.5℃目標」の認証を取得しており、事業の使用電力を 100%再生可能エネルギーで賄うことをめざす国際的なイニシアチブ「RE100」にも加盟しています。

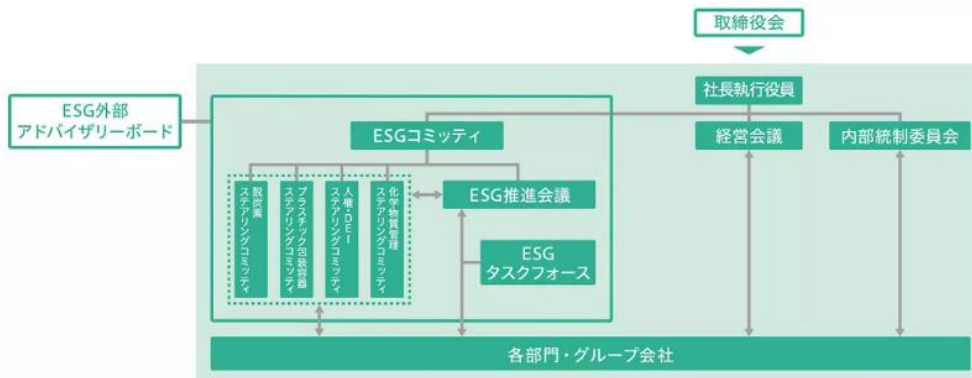
花王の脱炭素目標

2040年までにカーボンゼロ、2050年までにカーボンネガティブをめざす



1.5 ESG ガバナンス体制

当社は、グローバルの大きな変化に対するレジリエンスを強化するとともに、事業機会の拡大を確実にし、社会課題解決をめざして、柔軟で強靱な ESG ガバナンス体制を構築しています。当社の ESG ガバナンス体制は、取締役会のもと、社長執行役員および配下の各組織体で構成されています。ESG コミティは、ESG 戦略に関する活動の方向性を議論、決定し、取締役会に活動状況を報告します。社外の視点を反映させるため外部有識者で構成される ESG 外部アドバイザリーボード、ESG 戦略を遂行するための ESG 推進会議、注力テーマについて活動を提案する ESG タスクフォースがあり、各部門の活動を推進しています。



1.6 サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク策定の背景

当社は、ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」に基づき、「ESG 視点でのよきモノづくり（ESG よきモノづくり）」を通して社会のサステナビリティ実現と企業価値の向上を目指しています。

今般、19 の重点取り組みテーマの一つである「脱炭素」に貢献する取り組みを推進するべくサステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク（以下、「本フレームワーク」）を策定し、本フレームワークに基づく資金調達を通じて 2040 年カーボンゼロ、2050 年カーボンネガティブを実現します。

2. サステナビリティ・リンク・ボンドフレームワーク

当社は本フレームワークにおいて、国際資本市場協会（以下、「ICMA」）の「サステナビリティ・リンク・ボンド原則 2020」および環境省の「サステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン（2022 年版）」にて定められている以下の 5 つの核となる要素について定めており、その適合性について株式会社格付投資情報センター（R&I）より、セカンドオピニオンを取得しています。

2.1 KPI の選定

2.2 サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（SPTs）の設定

2.3 債券の特性

2.4 レポーティング

2.5 検証

2.1 KPI の選定

本フレームワークに基づき発行するサステナビリティ・リンク・ボンドは、以下の重要な評価指標（以下、「KPI」）を使用します。KPI は ESG 戦略「Kirei Lifestyle Plan」において設定されている 19 の重点取り組みテーマの一つである「脱炭素」に貢献する指標です。当社は、KPI の 2030 年目標（2030 年度までに 55%削減することをいう。以下同じ。）について、SBT 1.5℃水準に沿った目標として SBTi の認定を取得しています。

項目	KPI 内容
KPI	花王グループ全拠点におけるスコープ 1+2 CO ₂ 排出量（絶対量）削減率（基準年：2017 年度）

<近年の実績>

	2019 年度	2020 年度	2021 年度	2022 年度
スコープ 1+2 CO ₂ 排出量 (絶対量) 削減率 (基準年：2017 年度)	9%	15%	20%	26%

※ 集計対象拠点：花王グループの全拠点、日本の営業車含む

※ 集計対象ガス：京都議定書に定める 7 ガス（日本以外の拠点は CO₂ のみ）

2.2 サステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット (SPTs) の設定

本フレームワークに基づき発行されるサステナビリティ・リンク・ボンドは、以下のサステナビリティ・パフォーマンス・ターゲット（以下、「SPT」）を使用します。

項目	内容
SPT	2026 年度までにスコープ 1+2 CO ₂ 排出量（絶対量）39%削減（基準年：2017 年度）
判定日	2027 年 5 月末日

※SPT は KPI の 2030 年目標と整合するように設定されている中間目標です。

2.3 債券の特性

SPT の達成状況により、本フレームワークに基づき発行されるサステナビリティ・リンク・ボンドの債券特性は変動します。具体的には、以下のとおり利率のステップ・アップが発生します。

- 利率のステップ・アップ
SPT が未達成の場合、判定日の直後に到来する利払日の翌日から償還日まで、利率が 0.10% 増加します。

なお、何らかの事態が生じ、判定日に SPT の達成状況が確認できない場合には SPT 未達成として対応します。また、サステナビリティ・リンク・ボンド発行後に当社が SPT を変更しても、既に発行したサステナビリティ・リンク・ボンドの SPT は変更されません。ただし、KPI の測定方法、SPT の設定等、前提条件や KPI の対象範囲に重要な影響を与える可能性のある想定外の事象（M&A 活動、各国の規制の変更等）が発生し、KPI の定義や SPT の設定を変更する必要性が生じた場合、当社は適時に変更事由や再計算方法を含む変更内容を当社ウェブサイト上に開示する予定です。

2.4 レポートニング

本フレームワークに基づき発行するサステナビリティ・リンク・ボンドが償還されるまでの期間、当社は設定した KPI に対する SPT の達成状況について、以下の内容を当社ウェブサイトにて開示します。

項目	レポートニング内容
KPI の実績	各年度末における KPI の実績
SPT の達成状況	判定日における SPT 達成状況
重要な情報更新等	SPT 達成に影響を与える可能性のある情報 (サステナビリティ戦略の設定・更新等)

2.5 検証

KPI の実績に関して、判定日が到来するまで年次で、独立した第三者から保証報告書を取得する予定です。取得した保証報告書は、当社ウェブサイトにて開示します。

以上